

3. 3 小学校5・6年生（6） 指導の概略

Ⅱ. 対処行動を知る B. 津波からの避難方法を知る IV. 先人の経験に学ぶ B. 津波てんでんこ

指導する学年	小学校6年生	指導する時間	特別活動 (学級活動)	指導する時数	1時間
目 標	津波から正しく、安全に避難するための方法・心構えを理解する。				
使用する資料	【写真-01～04】過去の津波による釜石市の被害 【資料-08】今後30年間の地震発生確率 【資料-12】津波避難のポイント 【その他】動く津波ハザードマップ 【print-36】津波避難のポイント				

1. 導入

(1) 釜石の過去の被災写真を見せ、このような津波が近い将来発生する可能性が高いことを紹介する。

【写真-01～04】過去の津波による釜石市の被害

【資料-08】今後30年間の地震発生確率

(2) 学習課題を把握する。

2. 展開

(1) 動く津波ハザードマップを見て、津波の影響を受ける場所を確認する。

【その他】動く津波ハザードマップ

(2) 津波の流れの特徴を確認しながら、津波から避難するときに注意する点を確認する。

- ①地震が発生したらすぐに避難する
- ②海から遠くでなく、高いところに逃げる
- ③一度逃げたら、数時間はそこで待機する

【資料-12】津波避難のポイント

(3) 「津波てんでんこ」に込められた願いや人々の思いについて説明する。

(4) これまで大きな地震が起きたときに、すぐに避難したかどうかをふり返り、今後、どのようなことに気を付けて避難すればよいかを話し合う。

3. まとめ

(1) 学習して気付いたことをプリントに記入する。

【print-36】津波避難のポイント

(2) 感想等を発表し、今日の学習をまとめる。

4. 確認

(1) 津波から正しく、安全に避難するための方法を知ることができたか？

(2) 避難しなくても大丈夫という気持ちに負けず、絶対に避難するという心構えを理解することができたか？

関連する
教科・行事等

3. 3 小学校 5・6年生（6） 指導の注意点

1. 導入

- (1) 釜石の過去の被災写真を見せ、このような津波が近い将来発生する可能性が高いことを紹介する。
- (2) 学習課題を把握する。

2. 展開

- (1) 動く津波ハザードマップを見て、津波の影響を受ける場所を確認する。
- (2) 津波の流れの特徴を確認しながら、津波から避難するときに注意する点を確認する。

①地震が発生したらすぐに避難する

- 地震発生後、数分で津波が到達することもあるので、とにかく早めに避難を開始する

②海から遠くでなく、高いところに逃げる

- 津波は川沿いや低いところだと内陸まで浸水するので、とにかく高いところに逃げる(3階建て以上の頑丈な建物が良い)

③一度逃げたら、数時間はそこで待機する

- 津波は繰り返しやってくるので、一度高いところに逃げたら、数時間はそこでじっとしている

- (3) 「津波でんでんこ」に込められた願いや人々の思いについて説明する。

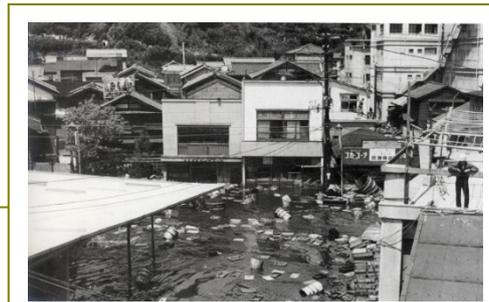
- 過去の津波で被害にあった人々が、津波が来たらとにかく早く逃げることが必要だという教訓を、後生に残したことをおさえる

- (4) これまで大きな地震が起きたときに、すぐに避難したかどうかをふり返り、今後、どのようなことに気を付けて避難すればよいかを話し合う。

- これまでに大きな地震を感じたときや、津波情報が発表されたときの状況を子どもたちに発表してもらい、その発言の中から、避難しなかったことをおさえる
- 避難しなくても大丈夫という気持ちに負けずに、避難するという心構えが必要なことをおさえる

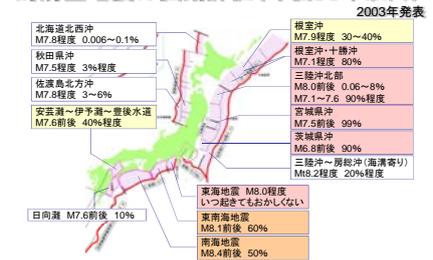
3. まとめ

- (1) 学習して気付いたことをプリントに記入する。
- (2) 感想等を発表し、今日の学習をまとめる。



【写真-04】1968年
十勝沖地震津波による釜石市の被害

海溝型地震の長期評価(今後30年以内)



【資料-08】
今後30年間の地震発生確率



【その他】
動く津波ハザードマップ

津波からにげるポイント

- 地震がおきたら、すぐに行動
→早めに行動しないと逃げ遅れてしまいます
- とにかく高いところへ
→平地であれば、頑強な3階建て以上の建物へ
- 海から遠いところはダメ
→津波は川を駆け上がってきたり、低いところにきます
- 一度高いところ避難したら、おりてこない
→津波はくりかえし何度もやってきます
- どこににげるのかをきめておく！

【資料-12】
津波避難のポイント